

0. はじめに

ホームページの事業案内に関連する最近のトピックス、業界・所属団体動向、展示会、法令改正、その他の最新情報等、ならびに感想や意見を「栗島技術士事務所ニュース」でお知らせします。

(今回は SDGs 特集です)

1. SDGs のWEB開催・無料セミナーご案内

●2022年11月17日(木)に日本技術士会 神奈川県支部主催、鎌倉市及び鎌倉商工会議所後援の地域産業活性化研究会 in 鎌倉をWEBで開催致しますのでご案内します。今回テーマは“SDGsに貢献する企業の取り組みと最新技術”でございます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(申込先：日本技術士会 神奈川県支部 ホームページ)

担当 栗島技術士事務所 TEL 090-6308-9352 E-mail

kurishimaken@msi.biglobe.ne.jp



2. 「SDGsを知りたい」方へのご提案

●SDGs 取組みに当たり、「話題になっている SDGs とは何?」、「事業に役に立つの?」、「何からやるの?」等のつぶやきにお応えする資料を2本準備しました。テーマは“SDGsの最新トレンドを理解しましょう”です。ご興味ある方は下記へ問い合わせください。無料の出張セミナーを受付け中です。

<サンプル>

<h3>2. SDGsの原点と展開</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●「持続可能な開発のための2030アジェンダ」 (1)2015年9月第70回国連総会で全会一致で採択 このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画 ・誰一人取り残さない(No one left behind) (2)「持続可能な開発目標」(SDGs) ・17の持続可能な開発のための目標と、169のターゲット ・各国の政策に定め優先度を尊重しつつ、すべての国に適用 ・経済、社会及び環境というその三つの側面において、バランスがとれ統合された形で達成することにコミット (3)各レベルでのフォローアップの枠組み ・各国政府が、国、地域、世界レベルでのフォローアップとレビューに第一義的な責任⇒目標毎の232のモニタリング指標 ・年1回の国連「ハイレベル政治フォーラム」によるフォロー 	<h3>6. 企業の動向(2)</h3> <p>●所見</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>所見</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業動向のトレンド</td> <td>事業プロセスが元来SDGs指向であった企業とSDGsを戦略として新たに取組む企業の2極化。いずれであっても、全社的活動にすることが重要。結果として、会社の持続可能性が進展できる。</td> </tr> <tr> <td>SDGsのメリット</td> <td>①会社知名度・ブランド価値の向上、②企業価値向上経営、③人材獲得力向上・組織の活性化、④社会ニーズの先取り、⑤サプライチェーン獲得・維持、関係強化⑥国際社会の方向性に合致した事業戦略、⑦イノベーションの機会、⑧リスクマネジメントシステムの整備、⑨投資家評価向上と融資機会の獲得、⑩利害関係者への説明責任強化</td> </tr> </tbody> </table>	項目	所見	企業動向のトレンド	事業プロセスが元来SDGs指向であった企業とSDGsを戦略として新たに取組む企業の2極化。いずれであっても、全社的活動にすることが重要。結果として、会社の持続可能性が進展できる。	SDGsのメリット	①会社知名度・ブランド価値の向上、②企業価値向上経営、③人材獲得力向上・組織の活性化、④社会ニーズの先取り、⑤サプライチェーン獲得・維持、関係強化⑥国際社会の方向性に合致した事業戦略、⑦イノベーションの機会、⑧リスクマネジメントシステムの整備、⑨投資家評価向上と融資機会の獲得、⑩利害関係者への説明責任強化
項目	所見						
企業動向のトレンド	事業プロセスが元来SDGs指向であった企業とSDGsを戦略として新たに取組む企業の2極化。いずれであっても、全社的活動にすることが重要。結果として、会社の持続可能性が進展できる。						
SDGsのメリット	①会社知名度・ブランド価値の向上、②企業価値向上経営、③人材獲得力向上・組織の活性化、④社会ニーズの先取り、⑤サプライチェーン獲得・維持、関係強化⑥国際社会の方向性に合致した事業戦略、⑦イノベーションの機会、⑧リスクマネジメントシステムの整備、⑨投資家評価向上と融資機会の獲得、⑩利害関係者への説明責任強化						

担当 栗島技術士事務所 TEL 090-6308-9352 E-mail kurishimaken@msi.biglobe.ne.jp

3. SDGsの実態



国連コミュニケーション (出典：2030アジェンダの履行に関する自発的国家レビュー2021)

①再エネ比率は18%に拡大し着実に進展している ②女性活躍のジェンダー・ギャップ指数は156か国の中で120位と低迷 ③経営陣のSDGs認知・定着率は85%で企業経営にSDGs浸透



国と地方自治体のSDGs活用 (出典：<https://www.chisou.go.jp> 及び各市のホームページ)

①国の目標：2024年度までに SDGs 来都市210件 (現：124件、毎年30件程度選定中)

②鎌倉市は、2018年にSDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業に選定され、市の総合計画にSDGsの取組を表明し、重要施策をSDGsにつなげている。企業及び諸団体も市に連携・活動し、経済・環境・社会のバランスを考慮した「未来都市鎌倉」の創造が進んでいる。

③相模原市は、2020年にSDGs未来都市に選定され、みんなのSDGs推進課を中心にSDGs活用を推進中。特に、相模原市とともに、SDGsの達成に向けた取組や地域課題の解決、SDGsの普及啓発に取り組む企業・団体等を「さがみはらSDGsパートナー」として登録する制度を運用中で、登録企業・団体は751件に達している。

